

こころん だより

Vol. **6**
2018 Autumn



こころん

■ 特集1

高齢者虐待の防止

文：高知県 地域福祉部 高齢者福祉課

■ 特集2

こころんの社会見学 障がい者雇用の現場から

訪問先：エフピコダックス株式会社

高齢者虐待の防止

文：高知県 地域福祉部 高齢者福祉課

高齢者を取り巻く現状

近年、家庭や介護施設における高齢者への虐待が社会問題となっています。こうした状況を受け、高齢者虐待の未然防止、早期発見、迅速かつ適切な対応を図るため、虐待等を受けた高齢者の保護及び養護者に対する支援の措置などを定める「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」（高齢者虐待防止法）が平成18年4月に施行されました。

平成28年度に高齢者虐待と認められた件数は、厚生労働省の調査によると、養護者※1によるものは16,384件、養介護施設従事者等※2によるものは452件となっています。

※1 養護者…高齢者を現に養護する者であって養介護施設従事者等以外の者
 ※2 養介護施設従事者等…「養介護施設」または「養介護事業」の業務に従事する職員

！ 高齢者虐待とは 高齢者虐待は、暴力的な行為ではありません。家族などの養護者（介護者）または養介護施設従事者等が高齢者の心や身体に深い傷を負わせたり、基本的な人権を侵害する行為で、高齢者虐待防止法において5つに分類されています。

① 身体的虐待

- たたく、つねる、殴る、蹴る、やけど・打撲をさせる
- 本人に向けて物を投げつける、無理やり食事を口に入れる
- ベッドに縛り付けたり、意図的に薬を過剰服用させるなどして身体を自由を奪う
- 外から鍵をかけて閉じ込めるなどして外部との接触を意図的に遮断する など

② 介護・世話の放棄・放任（ネグレクト）

- 入浴させておらず異臭がする、皮膚や衣服、寝具が汚れている
 - 水分や食事を十分に与えず、空腹・脱水・低栄養状態のままにする
 - 室内にごみが放置、冷暖房を使わせないなど劣悪な住環境で生活させる
- ※必要とされる介護や世話を怠り高齢者の生活環境・身体や精神状態を悪化させる行為は、意図的であるか、結果的であるかを問いません。
- 必要とする介護・医療サービスを受けさせない
 - 同居人などが高齢者に対して行う暴力や暴言行為を放置する など

③ 心理的虐待

- どなる、ののしる、悪口を言う、無視をする
- 老化現象（排泄の失敗や食べこぼしなど）を嘲笑したり、それを人前で話すことなどにより恥をかかせる
- 侮辱を込めて子どものように扱う
- 本人の意思や状態を無視して、トイレに行けるのにおむつをあてたり、食事の全介助をする など

④ 性的虐待

- 合意のないあらゆる形態の性的な行為またはその強要
- 介助がしやすいという目的で下半身を裸にしたり、下着のままで放置する
- 人前で排泄行為をさせる、おむつ交換をする など

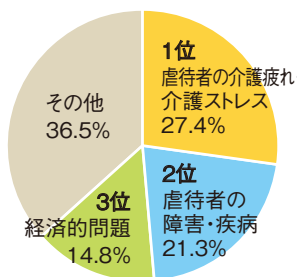
⑤ 経済的虐待

- 日常生活に必要な金銭を渡さない、使わせない
- 財産を無断で売却する
- 年金や預貯金を無断で使う など

高齢者虐待を防ぐために

高齢者虐待は、必ずしも悪意や自覚を持って行われているとは限りません。自覚のないままに高齢者を危険な状態に陥らせてしまっていることや、介護をしている家族などが高齢者の介護や世話で心身ともに疲労し、追いつめられることで虐待が発生してしまうこともあります。

■ 養護者による虐待の発生要因



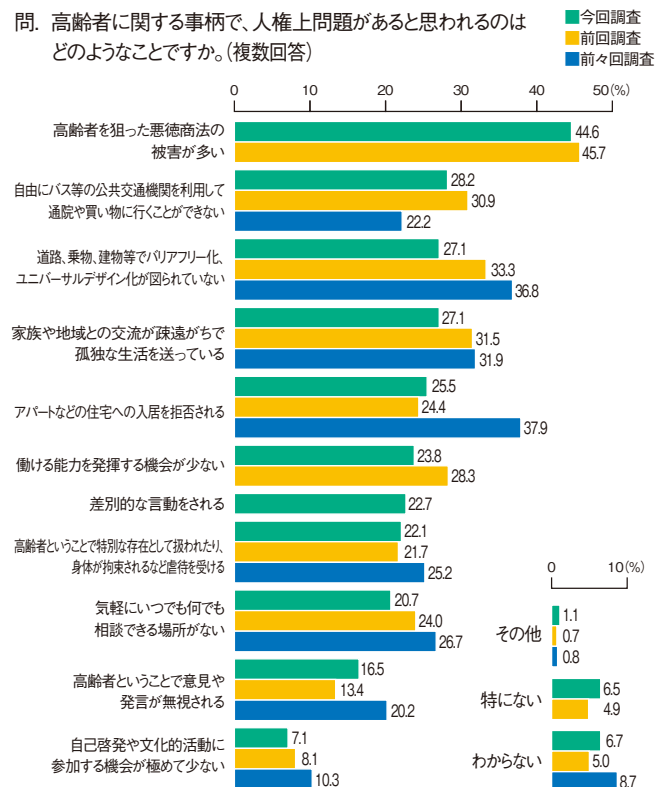
※平成28年度高齢者虐待防止法に基づく対応状況等に関する調査（厚生労働省）

高齢者虐待を防ぐためには、早い時期に第三者が介入することで虐待がエスカレートするのを防いだり、サービスや制度を利用して介護の負担を軽減するなど、生活に困難や課題を抱える人をしてできるだけ早く適切な支援につなぐことが大切です。

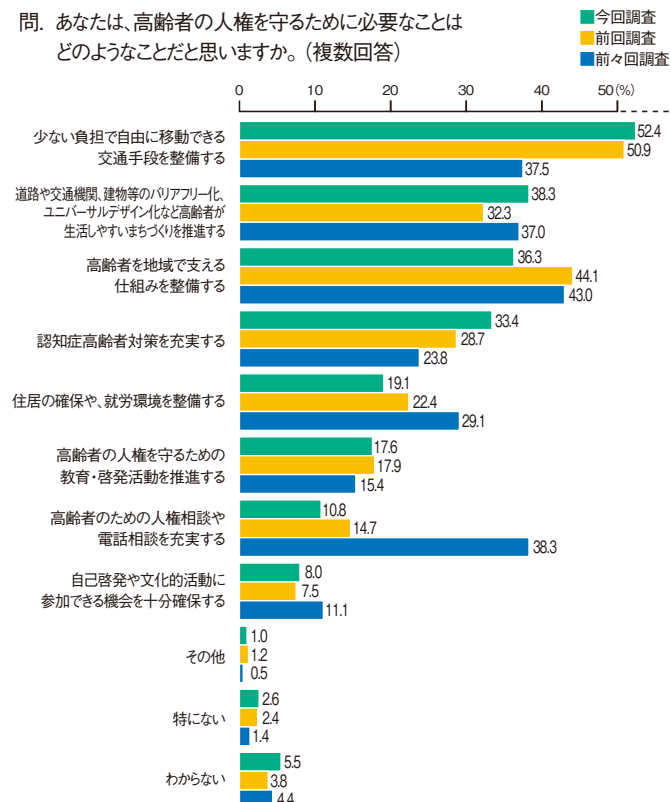
コラム 人権に関する県民意識調査

「人権に関する県民意識調査」は、県がこれからの人権施策を進めていくうえでの基礎資料とすることなどを目的に、県民の皆様の人権に対する意識について、5年ごとに実施しているものです。平成29年度の調査は、選挙人名簿から無作為抽出した県内在住の18歳以上の3,000人に調査票を郵送し、1,604票の有効回収（回収率53.5%）を得ることができました。次の回答結果は、身近な人権課題のうち高齢者に関しての設問から抜粋したものです。（前回調査は平成24年度に、前々年度調査は平成14年度に実施）

高齢者に関する人権上の問題点



高齢者の人権を守るために必要なこと



人権に関する県民意識調査に関するお問い合わせ先

高知県人権課 ☎ Tel: 088-823-9804 ✉ E-Mail: 141101@ken.pref.kochi.lg.jp

こころんの社会見学

障がい者雇用の現場から

訪問先: エフピコダックス株式会社

食品トレーや容器の製造・販売を行う「株式会社エフピコ」のグループ会社の一つ、「エフピコダックス株式会社」。高知県を拠点に全国で展開しており、全社193人の社員のうち、116人の身体・知的・精神の障がい者が働いています。

障がい者雇用に積極的に進め、先進的な取り組みを行ってきた且田久雄社長にお話を伺いました。

障がいがあっても、ちゃんと働ける。
なぜなら、彼らは仕事に誇りを
持っているからです！

エフピコダックス株式会社
代表取締役社長 且田 久雄 さん

障がい者が働く場を作りたい

私が障がい者との関わりを持ったのは、障がい者施設の立ち上げを手伝った20歳の時。最初はコミュニケーションも難しくて、どうなることかと思いましたが、ともに寝起きして働くうちに、次第に心が通じ合うようになり、彼らは「障がいがあっても何だってできるんだ」と知りました。その経験から「障がい者がきちんと収入を得ながら働くことができる場」と立ち上げたのが、エフピコダックス株式会社（前 株式会社ダックス四国）の始まりです。

みんなバリバリ
働いてるんだね

社長さん
お話を聞いてきました！



南国市にある本社・工場で働く46人中30人が
障がいのある人で、すべて正社員

仕事に誇りを持っている

エフピコダックスでは、回収したトレーや容器を選別したり、大型成形機でトレーや容器を作ったり、手作業で折箱タイプの容器を作ったり、いろいろな場面で障がい者が活躍しています。その人の特性や能力を発揮できる部署に配属し、わかりやすいルール、作業しやすい道具や環境を整えて、先輩社員が仕事を教えていくしくみです。最初は落ち着きがなかったり、感情のコントロールができなかったりした人たちも、3ヵ月ほどするとしっかり仕事に向き合い、黙々と作業をこなし、次第に仕事の質も高まっていきます。

そして、彼らは仕事を休まずきちんとやり遂げます。それは、「自分が休むと会社が回らない」という自負があるからです。仲間に迷惑をかけないためにもしっかりと体調管理をしようという心が育っています。人の役に立つ存在であることが誇りであり、働きがいになっているのです。年に1回は親御さんを含めて全員で経営会議を開き、会社の経営状況も開示します。重度の障がい者でも、10年経つと損益計算書の内容がほぼ理解できるようになって、利益が上がればそれがモチベーションになります。

会社の中で社会性が育つ

当社では、年に1回社員旅行を行っています。今年は、紅葉時期の黒部ダムや金沢を訪れる予定です。障がいのある人は、まわりの家族も本人も「何かあったら」と予防線を張ってしまい、あまり旅行をしたことがありません。社員旅行ではなるべくたくさんの経験ができるようにプランを立てます。ある社員は、飛行機が苦手で10年程旅行に参加していませんでしたが、一度乗ると慣れてしまって、今では一人でふらっと旅を楽しむようになりました。

また、エフピコグループには、フロアホッケーのサークルが全国10拠点18チームあり、社員約650名が活動しています。高知チームは、エフピコグループ内第1号のチームとして発足し、月に一度、15人のメンバーが汗を流しています。これまでに、数々の大会で勝利を収めています。

みんなで楽しむ！ フロアホッケー

知的障がいがある人たちの国際的スポーツ組織「スペシャルオリンピックス」の中で、最も古い競技がフロアホッケー。小さい子どもから高齢者、障がいがある人もない人も誰もが楽しめるユニバーサルスポーツです。



働くことは誰にでも保障されている人権

当社には、重度の障がいがある人が多く、「働くこと」がとても特別なことのように言われますが、障がい者も労働基準法によって働く権利が保障されています。働いて給料をもらい、生計を立てることが当たり前に行えるような社会でなければなりません。彼らは、確かに障がいがあるけれども、「かわいそう」ではありません。持っている能力を発揮して、働き、賃金を得るべきだと考えます。「できない」と決めつけて、働く機会を奪ってはならないのです。労働力が著しく不足している今、障がい者の正規雇用を進めることが大切です。

その人の特性を活かすことが
大事なんだね。
勉強になったなあ！



今回の訪問先

エフピコダックス株式会社
高知県南国市岡豊町江村11

<https://www.fpco.jp/csr/societyeffort/handicap.html>



COCORUN NEWS こころんニュース

NEWS

こころんの紙芝居で、人権感覚を育む！

訪問先: 認定こども園 びすた保育園

今回、紙芝居に参加してくれたのは、4～5歳の園児たちです。合計24名の元気な呼び声に誘われてパペット「こころん」が登場すると、子どもたちの目はキラキラ。その後、先生が紙芝居を読み始めると、みんな集中して見入っていました。

「ジェンダー」をテーマにした場面では、青い帽子の子どもが登場。「だれかなあ？」という問いかけに、子どもたちは「青い帽子だから男の子！」と反応。その後、青い帽子の女の子だとわかり、それぞれ楽しそうに納得している様子が見られました。



こころんのパペットと紙芝居は、
いつでも無料で貸し出しをしています！

幼い子どもたちの人権意識の芽生えを促すことを目的に、当センターが作成した紙芝居「こころんといっしょにまちたんけん」。その貸出先の一つ、認定こども園びすた保育園に取材に行ってきた。



読後の振り返りでは、紙芝居に出てきた耳や目の不自由な人やお年寄りの日常生活についてみんなで考えるなど、様々な人権につながる話ができていました。

最後には、5歳児一人ひとりが自分の良いところを発表。参加してくれた全員が、この紙芝居を通して、思いやりの心を持つ大切さなどを学んでくれたのではないかと思います。

啓発事業

強調旬間啓発事業へご来場ありがとうございました

日時：2018年7月18日(水) / 参加者：285名
場所：高知県立県民文化ホール(グリーン)



RKC高知放送特別顧問 半田 久米夫さん

高知県では、毎年7月10日から20日までを「部落差別をなくする運動」強調旬間と位置付け、県民の皆さまに同和問題に対する理解と認識を深めていただくための啓発事業を実施しており、今年で45回目を迎えます。

今年度は、本県で実際にあった差別事象や、実在する人たちが生きてきた

姿を題材として平成5年に県が企画・製作した映画「きらめきの波濤」を上映しました。その後、高知新聞記者時代から同和問題に取り組んでこられたRKC高知放送特別顧問の半田久米夫さんに「人権感覚を磨こう～被差別の現場から学ぶ～」と題して、ご講演いただきました。

事業終了後のアンケートでは、「今後もこのような事業を行うべきだと思うか」という問いに90%以上の方が「行うべきだ」と答えています。

■平成29年度に実施した「人権に関する県民意識調査」では…

「同和地区や同和地区の人ということを感じたり意識する場合」について、「気にしたり、意識したりすることはない」の割合は55.3%であり、40%以上の方は「気にしたり、意識したりする」という結果が出ています。



■「きらめきの波濤」(VHS・DVD)は、「じんけんライブラリー」で無料貸出をしています。ぜひご活用ください。

アンケートより

- 同和問題について、小学生の頃から学んでいたことであったため、その頃感じた思いなど思い出することができました。参加できて良かったなと思います。今後も人権問題について学んでいきたいと思いました。
- いわれのない部落差別にこんなにも苦しんでいる方がいるなんて、とても心が痛みます。あつてはならない事です。
- 具体的な内容を話すことにより、知識や理解が深まりやすい。



ぜひご参加ください！

9月14日(金)

スポーツ事業

スポーツ組織と連携・協力した人権啓発活動事業

冠協賛試合「じんけん啓発DAY」 高知ファイティングドッグス vs 徳島インディゴソックス

入場料 高校生以上 当日1,000円(前売800円)
小中学生 当日500円(前売400円) **高知県内在住の小中学生は無料**

会場開始 高知市営球場(高知市大原町158)
開始18:00～(開場17:00)

ご来場の皆様に
こころんのうちわ
プレゼント!



冠協賛試合について

いじめなどの身近な人権課題について理解と認識を深めてもらうために、人権啓発活動の一環として冠協賛試合を開催します。試合終了後、アンケートにご協力いただいた先着100名の方に消しゴムで消せるカラー芯シャープペンシル3本セットをプレゼントします。

10月28日(日)

講演会

平成30年度 人権啓発研修 第1回ハートフルセミナー

講演会「あつてはいけない違い、なくてはならない個性 ～次世代につなぐ人権のバトン～」

参加費無料 定員100名(予約優先)

講師 ジェフ・バーグランド 氏
(京都外国語大学教授)

会場開演 高知県立人権啓発センター6階ホール
14:00～16:00 ※受付13:30～

講師紹介

1949年、アメリカ合衆国南ダコタ州生まれ。バーグランド薫夫人との間に、健、龍之介、漱石の3人の息子がいる。趣味は尺八、お皿洗い・掃除、ジョギングなど。京都在住48年。現在は江戸時代後期に建てられた京町家に暮らす。日本人以上に日本の文化を愛する一人でもあり、執筆も多数。京都国際観光大使。専門は異文化コミュニケーション。

11月7日(水)

講演会

平成30年度 第2回人権啓発研修ヒューマンパワー育成講座

「ハラスメント最新情報 ～あなたの理解で大丈夫ですか?～」

参加費無料 定員100名(予約優先)

講師 金子 雅臣 氏
(一般社団法人職場のハラスメント
研究所代表理事、労働ジャーナリスト)

会場開演 高知県立人権啓発センター6階ホール
14:00～16:00 ※受付13:30～

講演内容

「これはハラスメント?」「そうではない?」職場におけるハラスメントの防止対策は不可欠です。ハラスメントの最新情報、グレーゾーンの場面での判断、対応、解決策について、具体的な事例をもとに学びます。

11月25日(日)

講演会

平成30年度 人権啓発研修 第2回ハートフルセミナー

講演会「車椅子からの出発 ～悩みながら前を向く～」

参加費無料 定員100名(予約優先)

講師 鈴木 ひとみ 氏
(人権啓発講師)

会場開演 高知県立人権啓発センター6階ホール
14:00～16:00 ※受付13:30～

講師紹介

ミス・インターナショナル準日本代表に選ばれ、ファッションモデルとして活躍中の1984年、交通事故で頸髄を損傷。著書が「車椅子の花嫁」と題して1987年にドラマ化される。現在は、執筆・講演活動の他、洋服メーカーのモデルとアドバイザー、企業のバリアフリーコンサルタント、ユニバーサルデザイン商品の開発など、共存・共栄のバリアフリーな社会を目指して精力的に活動中。2004年アテネパラリンピック射撃日本代表。

お申し込み・お問い合わせは (公財) 高知県人権啓発センター ☎088-821-4681

ヒューマンパワー育成講座

「働き方の鍵は個性の尊重にあり ～働き方から生き方まで～」 青野慶久さんによる講演会を開催しました

日時：2018年7月23日(月) / 参加者：77名
場所：高知県立人権啓発センター6階ホール

サイボウズ(株)代表取締役社長の青野慶久さんをお招きし、働き方の多様性についてご講演いただきました。従業員一人ひとりの個性が違うことを前提に、それぞれが望む働き方や報酬が実現されればよいという考え方や、公平性よりも個性を重んじることで一人ひとりの幸福を追求するという考え方や、また、人事制度は変えるものではなくて足すものだという考えのもと社内のワークスタイル変革を推進している現状や、ご自身も育児休暇を3回取得され学んだことなど、参考になるお話をたくさん聞かせていただきました。

ふりかえりシートより

- 子育てから社会を変革していく事が大事なんだと感じた。個性を大事にしていくような人事制度を、多くの企業が取り入れていけば発展していく会社が生まれていくのではないかと感じられた。
- 個人戦ではなくチーム戦で仕事を行っていくなど、身近に取り組めそうなおことから1つずつやっていこうと思いました。
- 多様性の重要性について考えることができ、大変有意義だった。
- 人事、総務への投資は「コスト性の高い投資」という言葉が印象的だった。



じんけんライブラリーをご存知ですか？

5F じんけんライブラリー

人権に関する図書、視聴覚教材、パネルの貸出を無料で行っています。
ホームページ内の「じんけんライブラリー検索」では人権課題別の蔵書検索もできます。

利用方法

- ご利用の際は、「じんけんライブラリー」利用カードが必要です。
カード発行は無料、その場でお作りします。
- 直接ご来館できない場合は、送付もいたします。(送料は利用者のご負担となります)

	図書	ビデオ・DVD	パネル	団体図書
貸出限度	5冊以内	2本以内	3セット以内	50冊以内
貸出期間	2週間以内	2週間以内	1ヵ月以内	1ヵ月以内



団体図書貸出について

小・中学校、高等学校ほか、地域で読書普及活動を行う団体やグループに、様々な人権問題についての図書の団体貸出を行っています。ご希望の図書について、お気軽にご相談ください。

ホール、視聴覚室もご利用ください

6F ホール (収容人員 270人 机併用の場合は180人)

講演会、研修等のイベントにご利用ください。

基本使用料(平日)			時間外使用料
午前	午後	全日	平日時間外、土・日・祝祭日
9:00～12:00	13:00～17:00	9:00～17:00	1時間
8,490円	11,360円	17,880円	4,250円

冷暖房使用料…1時間 / 610円(1時間未満の時は、1時間として計算します)

- この表に定める時間区分には、実際に利用する時間のほか、その準備・片付けに要する時間を含みます。
- 時間外使用料は、利用時間が1時間未満でも1時間として計算します。

4F 視聴覚室 (利用無料 / 収容人員 48人)

視聴覚機器を利用する研修等にご利用ください。

※人権に関する研修等にのみ使用できます。



5F じんけんライブラリー



6F ホール



4F 視聴覚室

詳しくは
ホームページを
ご覧ください!



こころん

「じんけんライブラリー」 高齢者に関するDVD紹介

タイトル	時間
♡ Pick Up!! 老いを生きる ～今日も何処かで高齢者のサインが!～	35分
虐待防止シリーズ 高齢者虐待 ～尊厳を奪わないために～	26分
ここから歩き始める	34分
認知症と向き合う	30分

- じんけんライブラリーでは「高齢者に関するDVD」を上記タイトルと合わせて計17本所蔵しております。
また、高知県人権啓発センターのホームページでは所蔵DVDの紹介もしておりますので、ぜひご覧になってください。

♡ Pick Up!!

老いを生きる ～今日も何処かで高齢者のサインが!～

超高齢社会の時代。そして、人生100歳の時代到来も… 現在、高齢者の人権を侵害する様々な問題が起こっています。

誰もが通らなければならない「老いの問題」を自分のこととして捉え、日常生活の中で、高齢者に対するやさしさや思いやりの心が、態度や行動に表れるような人権感覚を身につけることがとても大切です。

明日はわが身かもしれない認知症の問題と、不幸にも家族から受ける虐待。現代社会を描く感動の人権教育啓発ドラマです。

MAP



公益財団法人

高知県人権啓発センター <http://www.kochi-jinken.or.jp/>

〒780-0870 高知県高知市本町4丁目1番37号 高知県立人権啓発センター 5階
TEL: 088-821-4681 / FAX: 088-821-4440 / E-Mail: center@kochi-jinken.or.jp

こころんだより Vol.6 2018年9月発行 (年4回発行)

制作・印刷: 有限会社ファクトリー 発行: 公益財団法人 高知県人権啓発センター